

神奈川県 大学発・政策提案制度
アートマネジメント人材を活用した多機能型音楽活動の推進による「神奈川モデル」の構築



第35回合唱コンクール in 追浜高校

藤原歌劇団団員による オペラ・アリア LIVE

出演	廣田 美穂	ソプラノ
	小山 陽二郎	テノール
	浅野 菜生子	ピアノ

日時 2010年9月30日(木) 13:30~
会場 神奈川県立追浜高等学校体育館
主催 神奈川県、昭和音楽大学

第35回合唱コンクール in 追浜高校 藤原歌劇団団員によるオペラ・アリア LIVE

Programma

ヴェルディ 《アイーダ》より「凱進行進曲」	ピアノ独奏	浅野菜生子
プッチーニ 《ジャンニ・スキッキ》より「私のお父さん」 “O mio babbino caro”	ラウレッタ	廣田美穂
ドニゼッティ 《愛の妙薬》より「人知れぬ涙」 “Una furtiva lagrima”	ネモリーノ	小山陽二郎
プッチーニ 《蝶々夫人》より「愛の二重唱」 “Bimba dagli occhi pieni di malia”	蝶々夫人 ピンカートン	廣田美穂 小山陽二郎
ヴェルディ 《エルナーニ》より「私を連れて行って」 “Ernani! ...Ernani involami”	エルヴィーラ	廣田美穂
ヴェルディ 《リゴレット》より「女心の歌」 “La donna è mobile”	マントヴァ公爵	小山陽二郎
ヴェルディ 《椿姫》より「乾杯の歌」 “Libiamo ne'lieti calici”	ヴィオレッタ アルフレード	廣田美穂 小山陽二郎
	ピアノ伴奏	浅野菜生子

出演者プロフィール

廣田 美穂 Miho HIROTA ソプラノ



昭和音楽大学音楽学部声楽学科を卒業、その後渡伊しローマ・サンタ・チェチーリア国立音楽院修了、ディプロマ取得、また助手も務める。

2000年第54回全日本学生音楽コンクール東京大会大学・一般の部第3位。2007年第76回日本音楽コンクール声楽部門第1位、第43回日伊声楽コンクール第1位。在伊中ヴァチカン市国ラテン語協会主催による歌劇「メデア」「ユディッタの勝利」、またRAI(イタリア国営放送)の番組に出演。

これまでにマーラー:交響曲第4番、ベートーベン:交響曲第9番などでソプラノリストを務める。また「仮面舞踏会」(アメリア)、「愛の妙薬」(ジャンネッタ)に出演し、2008年には藤原歌劇団本公演「ラ・ボエーム」(ミミ)で本格的にデビューする。

その後、文化庁新進芸術家海外研修制度で再びローマに留学。鈴木康夫、浅野菜生子、R. BERG、M. PARUTTO各氏に師事。2008年川崎市アゼリア輝賞を受賞。

昭和音楽大学非常勤講師、日本オペラ振興会育成部講師、藤原歌劇団団員。

小山 陽二郎 Yojiro OYAMA テノール



愛知県芸術大学卒業、同大学院及び研修生修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第12期生修了。愛知県新進芸術家海外研修費助成を受けて、1994年イタリアのミラノに留学。R・ブロージ歌曲コンクール、カシナ・リリカ、ブタペスト、ドニゼッティ・ロッシーニの声国際コンクールにそれぞれ第2位入賞のほか、マリア・カラス、ティト・スキーパー、フェルッチョ・タリアヴィーニ等の各国際コンクール入選。神田詩朗、岡山廣幸、L. アルヴァ、V. テッラノーヴァの各氏に師事。

1995年、愛知県芸術劇場での「愛の妙薬」ネモリーノでデビュー後、イタリアの各地で同役や「セヴィリアの理髪師」「ドン・パスクアーレ」「友人フリッツ」「アルジェのイタリア女」「ゴジ・ファン・トゥッテ」「リゴレット」マントヴァ公爵「バステイアンとバステイエンヌ」などに出演。1997年から99年までハンガリー国立歌劇場のメンバーとして「ファルスタッフ」のフェントン、「ラ・チェネントラ」のドン・ラミーロ、「ルチア」のアルトゥーロで出演を重ね、ルーマニア・コンスタンツァ・オペラ・フェスティバルでの「リゴレット」でも成功を収めた。

国内では1997年に日生劇場での「魔笛」のタミーノに出演して絶賛を博し「セヴィリアの理髪師」にも出演。1999年7月に帰国。名古屋を拠点にして活躍。2000年新国立劇場に小劇場シリーズ「幸せな間違い」のベルトランドでデビュー。その後、活躍の中心を東京に移し、藤原歌劇団では文化庁舞台芸術体験事業「愛の妙薬」の出演を経て、2003年「ロメオとジュリエット」のティバルトで本公演デビュー。2004年は5月に「イル・カンピエッロ」のドン・パスクアーレを好演、9月は創立70周年記念「カルメン」のレメンダードに出演、05年サントリーホール20周年記念公演「ファルスタッフ」、06年「ランスへの旅」ベルフィオーレ、07年4月昭和音楽大学新百合ヶ丘キャンパスオープニング記念公演「愛の妙薬」等に出演、08年新国立劇場「軍人たち」ピルツェル大尉、藤原歌劇団公演「椿姫」アルフレードで好評を博した。

その他、びわ湖ホール・プロデュースオペラ「シチリアの晩鐘」などで活躍している。日本オペレッタ協会「ヴェニス一夜」「パパコーダ」「パリの生活」ボビネ、「メリー・ウイドウ」カミーユ、名古屋二期会「カルメン」ドン・ホセ、昭和音楽大オペラ「夢遊病の女」エルヴィーノ「ピーア デトロメイ」ギーノ、などのオペラのほか、第九や宗教曲、歌曲、カンツォーネのコンサートでも活躍している。

現在、昭和音楽大学及び大学院講師、藤原歌劇団団員。

浅野 菜生子 Naoko ASANO ピアノ



桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒。同大学声楽科伴奏研究員修了。これまでにピアノを金澤希伊子、須貝久子、クリフォード・ベンソン、室内楽を練木繁夫、磯恒夫、クリスチャン・イヴァルディ、ジェレミー・メニューイン、デニス・ヴェベール、伴奏法を星野明子、アーウィン・ゲージの各氏に師事。声楽・器楽伴奏・オーケストラ鍵盤楽器奏者として活動を開始し、古典から現代曲、管弦楽作品からバレエ音楽まで数多くの鍵盤楽器を担当。

96年に野村国際文化財団の奨学金を受けミラノへ渡り、スバルティートとカルロ・カメリーニ、マルコ・ムナーリの両氏に師事。在伊中はミラノ・マントヴァ・ヴェローナ等でのコンサート出演や、声楽コンクールの公式伴奏者を務めた。

98年9月に帰国し、藤原歌劇団・新国立歌劇場ピアニスト、東京フィルハーモニー交響楽団鍵盤楽器奏者、各種コンサートの伴奏者として活動を再開。01年3月よりローマミュージックファンデーションより奨学金を受け、再び渡伊、ローマで研鑽を積んだ。その間ローマ歌劇場や、スペイン・バルマ歌劇場(マジョルカ)で音楽スタッフとして公演に参加。

02・05・08年に開催された「静岡国際オペラコンクール」で公式伴奏者を務めた。現在はオペラでの公演スタッフ、オーケストラ鍵盤楽器奏者、講習会でのピアニスト・通訳、リサイタルでの共演ピアニストとして幅広く活動。

07年エレナ・モシユク ソプラノリサイタル(特別ゲスト ジュゼッペ・ジャコモニ)で伴奏を勤め、そのサポートでアーティストからも高い評価を受けており、08年にはジョセフ・カレヤ、エレナ・モシユク、09年にはフランチェスコ・メーリ、ディナーラ・アリエーヴァ等、来日アーティストの共演ピアニストとしても活躍の場を広げている。

06年スペイン音楽を中心としたライブ収録CD「ラテンの大地から」(共演 ソプラノ:山本真由美、バトン:ルイス・シントス)をリリース。

藤原歌劇団団員。昭和音楽大学・大学院非常勤講師。

藤原歌劇団について



藤原歌劇団は、1934年(昭和9年)に藤原義江を中心に創設され、わが国初の本格的なオペラ団体として半世紀を超える公演活動を継続しています。1981年(昭和56年)、日本オペラ協会と統合して財団法人日本オペラ振興会を発足させ、藤原歌劇団は西洋オペラを公演する部門となり、その名称は歴史と伝統とともに継承され今にいたっています。

1985年(昭和60年)1月から、三代目総監督に五十嵐喜芳を迎えた藤原歌劇団は、名作を中心にオペラの普及を目指し、歌手はもとより指揮、演出をはじめとするスタッフ等、適材適所で外来アーティストを起用した国際レベルの舞台、また、1986年からいち早く字幕を導入して新風を吹き込むなど、画期的成功を収めました。

五十嵐喜芳の新国立劇場オペラ芸術監督就任以降、1997年7月より下八川共祐(財団法人日本オペラ振興会常任理事)、2003年9月より岡山廣幸が公演をプロデュースしています。

【左】藤原義江
(財団法人日本オペラ振興会ウェブサイト <http://www.jof.or.jp/>)



【上段】《ラ・ボヘーム》第2幕より「クリスマス・イヴのカフェ」(中央右にミミとロドルフォ) 【下段左】同第1幕より「ミミとロドルフォの屋根裏部屋での出会い」(いずれもミミ: 廣田美穂)

【下段中・右】《ラ・トラヴィアータ〜椿姫》第2幕より「裏切られたと勘違いしたアルフレードと愛しているのに真実を言えないヴィオレッタ」、同第3幕より「ヴィオレッタの死の場面」

【表紙】同第1幕より「アルフレードとヴィオレッタによる(乾杯の歌)」(いずれもアルフレード: 小山陽二郎)

* 写真はすべて藤原歌劇団の2008年の公演より